

令和元年度 磐田市中学生海外派遣事業報告書



ベトナム社会主義共和国

令和元年8月19日(月)～8月23日(金)

磐 田 市

目 次

◆ 派遣団員名簿	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
◆ 派遣事業の経過	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
◆ 派遣日程	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
◆ 派遣中学生報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
宮本 理名	磐田第一中学校 3年	5
蜂須賀 來奈	城山中学校 2年	6
大島 健太郎	向陽中学校 2年	7
坂井 麻衣	神明中学校 1年	8
松浦 七帆	南部中学校 2年	9
寺田 実央	福田中学校 2年	10
牧野 亘朔	竜洋中学校 3年	11
田中 陽希	豊田中学校 2年	12
小島 彩花	豊田南中学校 3年	13
鈴木 咲理	豊岡中学校 3年	14
鈴木 琉花	磐田東中学校 3年	15
◆ 派遣同行者報告	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
村松 啓至	団長・教育長	17
山内 秋人	こども部長	19
宇田 信一	磐田第一中教諭	20
石坂 理美	豊田南中養護教諭	21
大石 祥平	財 政 課	22
仲市 ももこ	市 民 課	23
金子 芙由子	秘 書 政 策 課	24
◆ 資料	・・・・・・・・・・・・・・・・	25

派遣団員名簿

No.	氏 名	所属・中学校名	学 年	性 別
1	むらまつ ひろし 村松 啓至	団長・教育長		男
2	みやもと りな 宮本 理名	磐田第一中	3	女
3	はちすか らな 蜂須賀 來奈	城山中	2	女
4	おおしま けんたろう 大島 健太郎	向陽中	2	男
5	さかい まい 坂井 麻衣	神明中	1	女
6	まつうら ななほ 松浦 七帆	南部中	2	女
7	てらだ みお 寺田 実央	福田中	2	女
8	まきの こうさく 牧野 亘朔	竜洋中	3	男
9	たなか はるき 田中 陽希	豊田中	2	男
10	こじま さやか 小島 彩花	豊田南中	3	女
11	すずき さり 鈴木 咲理	豊岡中	3	女
12	すずき るか 鈴木 琉花	磐田東中	3	女
13	やまうち あきと 山内 秋人	子ども部長		男
14	うだ しんいち 宇田 信一	磐田第一中教諭		男
15	いしざか さとみ 石坂 理美	豊田南中養護教諭		女
16	おおいし しょうへい 大石 祥平	財政課		男
17	なかいち ももこ 仲市 ももこ	市民課		女
18	かねこ ふゆこ 金子 芙由子	秘書政策課		女

事業経過

月 日	内 容	参 加 者
6月17日 (月)	派遣中学生11名決定	/
7月29日 (月)	<p>事前研修 磐田市役所 本庁舎1階 第1会議室</p> <p><input type="checkbox"/>参加者自己紹介 <input type="checkbox"/>オリエンテーション <input type="checkbox"/>ヤマハ発動機株式会社 本社工場見学 <input type="checkbox"/>事前課題グループワーク</p> <p>※ベトナムについて 現地学校交流時の出し物について</p>	派遣中学生 事務局
8月9日 (金)	<p>結団式 磐田市役所 西庁舎3階 301-303会議室</p> <p><input type="checkbox"/>市長あいさつ <input type="checkbox"/>派遣団員紹介 <input type="checkbox"/>派遣中学生決意表明 <input type="checkbox"/>派遣団長訓示 <input type="checkbox"/>写真撮影</p>	市長 派遣中学生及び 保護者 派遣同行職員
8月19日 (月) く 8月23日 (金)	<p>海外派遣 ベトナム社会主義共和国（3泊5日）</p> <p><input type="checkbox"/>出国 <input type="checkbox"/>ハノイ市内見学 ホアロー収容所等 <input type="checkbox"/>ヤマハモーターベトナム工場見学 <input type="checkbox"/>現地家庭へホームステイ <input type="checkbox"/>ベト・ドク高校の学生と交流 <input type="checkbox"/>ハロン湾クルーズ <input type="checkbox"/>帰国</p>	派遣中学生 派遣同行職員
8月23日 (金)	<p>解団式 磐田市役所 本庁舎4階 大会議室</p> <p><input type="checkbox"/>団長あいさつ <input type="checkbox"/>派遣中学生 研修の振り返り <input type="checkbox"/>写真撮影</p>	派遣中学生及び 保護者 派遣同行職員

派遣日程

No.	月日・曜日	都市	旅 程 内 容
1 日 目	8月19日 月	磐田市発 中部国際空港着 中部国際空港発 ハノイ空港着 ハノイ空港発 ハノイ	5:50 集合、貸切バスにて中部国際空港へ 10:15 ベトナム航空にてハノイへ ○昼食：機内食 13:40 着後、貸切バスにて市内へ 15:30 ★ <u>ハノイ市内見学</u> ホアロー収容所・オペラハウス見学 ○夕食：レストラン 17:10 18:30 ホテル着【ハノイ泊】 宿泊：バオソンホテル
2 日 目	8月20日 火	ハノイ	○朝食：ホテルにて 7:45 ホテル出発 9:00 ★ <u>磐田市企業との交流</u> <u>ハイ工業団地/ヤマハモーターベトナム</u> 12:00 ○昼食：レストラン 13:15 ★ <u>ハノイ市内見学</u> <u>ホーチミン廟外観、一柱寺、軍事歴史博物館、</u> <u>タンロン城等</u> 17:00 ★ <u>ホームステイ先の各家庭へ（2～3名1組）</u> ○夕食：ホームステイ 宿泊：ホームステイ
3 日 目	8月21日 水	ハノイ ハロン湾	○朝食：ホームステイ ホームステイ先の生徒と一緒に登校 8:30 ★ <u>現地学校訪問と交流</u> 12:00 ○昼食：レストラン 午後 専用車にてハロン湾へ移動（3時間半程度） ホテル着【ハロン湾泊】 ○夕食：レストラン 19:00 宿泊：ハロンプラザ
4 日 目	8月22日 木	ハロン湾 ハノイ	○朝食：ホテルにて 8:30 ホテル出発 9:00 ★ <u>ハロン湾クルーズ</u> ○昼食 12:00 専用車にてハノイへ移動 15:30 ★ <u>日本企業 イオンモール散策</u> <u>ロッテ展望台等見学</u> ○夕食：レストラン 21:00 ★ <u>国旗降納式見学</u> 空港にて搭乗手続き開始
5 日 目	8月23日 金	ハノイ空港発 中部国際空港着 磐田市着	0:40 ベトナム航空にて中部国際空港へ ○朝食：機内食 6:55 到着後、貸切バスにて、磐田市へ 10:30 磐田市役所到着後、解団式

派遣中学生報告

ベトナム研修を終えて

宮本 理名（磐田第一中学校3年）

大きな期待に胸をふくらませ、私は派遣団のみなさんとベトナムを訪れました。

首都ハノイの街並みは、想像していたよりも都会的で、人々の活気であふれていました。日本と大きく違っていた点は、街中にあふれるバイクの数です。その中には日本製のモノも多く見られました。

翌日、私達は「ヤマハモーターベトナム」を見学させてもらいました。ここでは従業員の方々がテキパキとスピーディーに仕事をこなしていました。日本人スタッフの方の話では、従業員のみなさんが細かく、丁寧に作業をしている為、商品の性能が高く人気があるそうです。

また、滞在中に心を痛めることもありました。それは、ホアアロ収容所や軍事歴史博物館を訪れた時です。ベトナム戦争での被害や悲惨さを目の当たりにし、ショックを受けました。ベトナムも日本も、戦争により、たくさんの被害を出し、復興した国です。そのため、共感することも多く、二度と戦争をしてはいけないという気持ちもより強くなりました。

私は、今回の滞在の中で、特に思い出に残っていることが2つあります。

1つ目は、ホームステイです。現地の男子高校生のご家族に温かく迎えてもらいました。夕食には、生春巻きやフォーなどのテーブルいっぱいのベトナム料理をご馳走になりました。どのお店よりも美味しかったです。そして話をしていると、日本のドラえもんやコナンなどのアニメや、AKB48などのアイドルが人気なことが分かり、驚きました。翌日の朝食は、バイクの後ろに乗せてもらい、フォーを食べに行きました。風を切って街を走る爽快感は今でも忘れられません。

2つ目は、現地の高校への訪問です。日本語を専攻している多くの高校生のみなさんが、明るく元気な笑顔で話しかけてくれました。私達も折り紙やだるまさんが転んだと一緒に遊んだり、磐田市歌を披露したりと、とても楽しく交流することができました。

ベトナムの方は、いつも笑顔で優しくフレンドリーです。こんな素敵な国との友好関係がずっと続いてくれることを願います。

最後に、一緒に行ってくれた大切な仲間達、職員のみなさん、旅行会社の流香さん、背中を押してくれた家族、ありがとうございました。こんなに充実した5日間を過ごせたのは、みなさんのおかげです。この貴重な体験に感謝し、磐田の為に恩返しできればと思います。

<研修での目標>

積極的にベトナムの方々と関わり、ベトナムの良さをたくさん感じ、自分の成長・磐田の発展に役立てる。

<目標に対する成果>

- ・ベトナムの良さ、ベトナムの方々の良さを感じ、磐田の良さも感じる事ができた。
- ・自分の視野を広げ、成長する事ができた。
- ・最高の仲間ができた。



ベト・ドク高校の生徒と
宮本さん（写真左）

かけがえのない経験

蜂須賀 來奈（城山中学校2年）

ベトナムで過ごした日々は、一瞬でかけがえのない5日間になりました。私にとって、空港での手続きや、飛行機に乗ること、ベトナムでの生活、全てが初めてでした。このように、沢山の「初めて」を体験し、とても素敵な経験となりました。

私は、この派遣事業を通して、日本とベトナムとを比較し、それぞれの良い所を見つけることができました。

ベトナムの街中では、一日中、クラクションの音が鳴り響き、歩行者に譲ることなく、次々とやってくるバイクに、横断するのも一苦労しました。この実際に感じた体験から、磐田市の交通機関が発展していることに気がきました。

また、文化の違いにも触れることができました。ベトナムの代表料理であるフォーや空芯菜は、日本には無い味付けで、とても美味しかったです。また、日本とベトナムの主食は同じ米ですが、同じ米でも、香りや味も全く違っていて、とても驚きました。このように、普段は気付かない磐田市のいい所や、今私がどれだけ幸せなのかを感じることができました。

ヤマハモーターベトナムでの工場見学、現地レストランでの食事、ハノイ市内の見学、ホームステイでの生活、現地の学校への訪問、バイクに乗ったこと、ハロン湾クルーズなど、沢山のプログラムに消極的になることなく、とても楽しい5日間を過ごすことができました。

このベトナム派遣で体験した経験全てが、私にとって財産となりました。このベトナム派遣で学んだことを、自分の将来や磐田市の発展に、繋げていきたいです。そして、今回ベトナム派遣に私を送り出してくれた家族、一緒に付き添って下さった職員の皆さま、そして、5日間ともに生活し、沢山の思い出を一緒につくってくれた10人の仲間達にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。とても、楽しかったです。

私は、今、陸上の長距離を頑張っているので、市町村駅伝で磐田市に恩返しをできるように、これからも日々努力を続けていきます。

<研修での目標>

- ・日本との文化の違いや、ベトナムの歴史について、深く知る。
- ・コミュニケーションをとる。

<目標に対する成果>

- ・実際に現地で体感して、日本と比較し、それぞれの国のいい所を見つけることができた。
- ・ホームステイや現地の学校で、積極的にコミュニケーションをとることができた。



ベトナム・ドク高校の生徒と
蜂須賀さん（写真左）

思い出と成長

大島 健太郎（向陽中学校2年）

僕がこの研修で特に楽しかったことは、ハロン湾とホームステイとハノイ市内学校との交流です。

僕の住む向笠地区は山が多く、海をなかなか見る機会もなく、さらになぜか石灰岩で興奮したこともあり、とても印象に残っています。その中でも潮風に当たったことが、一番気持ちよかったです。

ホームステイでは、ホストファミリーが手厚く歓迎してくださり、とても楽しく交流できました。夕食は、ブン・チャー（米粉で作った麺を牛肉とタレをつけて食べる）と、揚げ春巻き（中国の小麦粉で作られたものとは違い米粉で作られたライスペーパーが皮のもの）をご馳走していただき、とてもおいしかったです。その後、ホストファミリーと日本のアニメについて話しましたが、こちらのことをよく理解していて、日本のアニメが好きな人が多くて、とてもうれしかったです。そして、ベトナムの夜の町も体験できました。

また、現地学校交流では、法被を羽織って日本のよさこいを披露してくださり、とても研究してくれたことがよく分かりました。また、僕たちが伝えた「だるまさんが転んだ」と折り紙をととても楽しんでくれて嬉しかったです。そして、みなさんとても上手でした。

この派遣では普段初めて会ったらかなりの時間一緒にいないと話せない自分、とても愛想の悪い自分が、会ってさほど時間のたっていない人ととても仲良くすることができ、自分自身の成長を感じました。そして、今まで自分の中で人の絆を今まで身にしみて感じていましたが、やはり人が人を信頼しているときの絆はとても美しいです。そして僕は、この派遣の中で、とても日本にいる友達や、家族のことが恋しかったです。そのため、いつも身近に友達や家族がいることは幸せなことだと分かりました。

僕は、今回の派遣で自分の中の視野がとても広がったり、人としてとても大切なことを学べたり、家族や友達の大切さを知ることができました。また、この仲間と海外に行けたのは僕の大切な思い出です。

<研修での目標>

今回の研修の目標は「人と接する」です。なぜなら、僕は人見知りで長い間一緒にいないと仲良くなれないからです。

<目標に対する成果>

学校交流で、会ったばかりでも、とても仲良くなれました。そして、一緒に行ったみんなとも、とても仲良くなれました。



クルーズ中の大島さん（写真左）

海外派遣事業を通じて学んだこと

坂井 麻衣（神明中学校1年）

私が乗っている車の真横を沢山のニワトリを入れたカゴを積み、平然とすり抜けるオートバイ。初めて目にしたベトナムは私にとって驚きの連続でした。

まず驚いたのはオートバイの多さです。道路にぎっしりと並んだオートバイが事故もなく、集団行進のように見事にすれ違っている様子に感心してしまいました。そして、人もどんな物でも運んでしまうオートバイがベトナムの人達にとって重要な交通手段となっていることがよくわかりました。

私の父もオートバイを持っていますが、友人とレースに参加したり、ツーリングに行ったりと、どちらかという趣味で使う事が多いので、日本とベトナムではオートバイを使う目的が少し違うのかなと感じました。

ベトナム人の重要な足であるオートバイを作っているヤマハモーターベトナムへ工場見学に行った時も、作業をしている方のスピードに驚いてしまいました。このスピードが道路に走っていた、たくさんのオートバイを生み出しているのだなと感じました。

あと私がこの派遣事業で心に残ったことはホームステイです。私は高校生のリンさんのお宅にホームステイさせていただきました。リンさんは日本語を勉強していて、将来は日本へ留学したいと言っていました。リンさんは食事の時も日本語で世話をしてくれたり、日本のマンガやアイドルについても話かけてくれたりしてくれて、仲良くなることができました。ベトナムに来て言葉が通じなくても、コミュニケーションをとりたいという気持ちがあれば、何とかかなると感じた一方、もう一歩近づいたコミュニケーションをとるには、言語が必要だとも感じました。そこで私はまず、英語の勉強から頑張ってみようと思いました。

今回の旅を通して、国、年代等違う様々な人と交流することができました。団長さんや職員の皆さんとも仲良くなりましたが、後ろでしっかり見守ってくださっていることで、充実した5日間を過ごすことができました。

また、一緒に行った11人の仲間とは、解団式後、別れるのが寂しくなってしまう程仲良くなれました。この11人の仲間との絆をこれからも大切にしていきたいと思えます。

最後にこの派遣事業に関わってくださったたくさんの方々、本当にありがとうございました。この貴重な経験を今後につなげていきたいと思えます。

<研修での目標>

- ・ベトナムと日本の違いを肌で感じる
- ・コミュニケーションを積極的にとる

<目標に対する成果>

- ・実際に行ってみないとわからないベトナムの良さ、日本の良さを発見できた。
- ・あいさつやジェスチャーを使い、色々な人とコミュニケーションをとることができた。



レストランにて笑顔の坂井さん（写真右）

ベトナムで感じたこと

松浦 七帆（南部中学校2年）

私がベトナムで最初に驚いたのは、スパイスの様なにおいがすることです。それよりも驚いたのは、バイクの量です。日本でもバイクを見かけますが、私の想像していた量の何倍もバイクが走っていました。ですが、私が滞在していた4日間のうちに、一度も事故を見ることは無く、運転技術が優れていると感じました。また、ベトナムでは、道路を渡るのにも一苦労でした。車やバイクが止まってくれず、初めは戸惑いました。ゆっくり同じスピードで歩けば、バイク側がよけて走ってくれるということを知り、2日目からは安心して道路を渡れるようになりました。

2日目は、ヤマハモーターベトナムを見学しました。事前研修で磐田にある工場を見学しましたが、磐田とは全く違う雰囲気でしたが、設備などについては、とても整備されていて、日本と似ていると感じました。工場内ですれ違った方に、「シンチャオ」と言うと、笑顔で挨拶を返してもらえ、ベトナム語が通じ、とても嬉しかったです。その日の夜、ベトドク高校のリンさんの家にホームステイをしました。夕食を食べに行き、その後、街中を散策したとき、公園から陽気な音楽が流れてきたり、バイクのクラクションが聞こえたり、夜の街はとても活気にあふれていました。

3日目の朝、リンさんにフォーのお店に連れて行ってもらいました。ベトナム人の生活の一部に触れるのは、なかなかできないので、とても良い経験となりました。学校との交流では、現場の学生がよさこいのパフォーマンスをして下さり、とても迫力がありました。私達は学生と、折り紙とだるまさんが転んだをし、とても盛り上がりました。また、私達の歌に喜んでくれて、嬉しかったです。その後、実際に授業をしているところを見学し、日本語の教室やドイツ語の教室があることや、学生によって学校に来る時間が違うなどと、日本とかなり異なる部分があり、とても驚きました。現地の学生の方は皆フレンドリーで、沢山話し掛けてもらえ、友達もでき、とても良い経験となりました。

その他に、ホアアロ収容所などを見学し、ベトナムのことを沢山知り、日本と全く違うが、戦後の生き方が、どこか日本と似ていると考えるようになりました。

最後に、事業に関わった方々に感謝すると共に、この大切な経験を生かし、これからの人生をより良いものにしていきたいです。

<研修での目標>

見たり、聞いたりするだけでなく、五感でベトナムを感じる

<目標に対する成果>

街の音や、香辛料の香りなど、テレビやインターネットでは知ることのできないベトナムの姿を知ることができた。



折り紙をプレゼントする松浦さん
(写真右から2番目)

私がベトナムで教えてもらったこと

寺田 実央（福田中学校2年）

私がこのベトナム行こうとした理由は、海外で暮らす人達は、どんな生活をしているのかということと、ベトナムと日本では、どのような文化の違いがあるのかということを知りたいと思い、この海外派遣に参加をしました。

ベトナムの空港に着いて、空港の外へ足を一步踏み出すと、雨が降っていたのにも関わらず、とても暖かい風が私たちに吹いてきて「ああ、もうここは日本じゃないんだ。私は今、ベトナムにいるんだ。」ということを感じました。そして、驚いたことは、私たちがベトナムへ行ったときに、ベトナムでは雨季で、突発的な雨（スコール）が多発すると聞いていました。実際にベトナムに行ってみると、雨が何度も降り、落雷まであったので最初はとても心配でしたが、本当に突発的でしばらくするとすぐにやみました。日本と違って雨が降っても、風がとても暖かかったです。

そして、ベトナムでは地震が起こらないため、とてもたくさんの高層建築物があり、また、赤い屋根にレンガ造りの家が多いということと、バスガイドさんに教えてもらいました。ベトナムにある建築物は、本当に高層建築物ばかりで、町の中にある家は、赤い屋根でレンガ造りの家がほとんどだったので「日本も地震がなかったら、ベトナムにたくさんあるような家や建築物が建てられるのかな。」と思いました。

ベトナムでの現地の方たちは、とても優しく、真面目でした。ホームステイをさせていただいたホストファミリーの方たちは、いつも私達のことを気にかけてくれて、どんなときも笑顔で、私達も温かくなるような気持ちになりました。

また、ベトナムの現地で見た、ハロン湾やオペラハウス等は、とても壮大で、そして神秘的で、印象に残っています。

ベトナムでは、上記のこと以外にも、日本と違う所がたくさんあり、行くことができとても良い経験になりました。これからの人生にたくさん生かしていきたいです。

最後に、団長をはじめ、一緒に来ていただいた引率の方々、そして、たくさんしゃべり笑いあった10人の仲間との5日間はあっという間で、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。

<研修での目標>

日本とベトナムの大きな違いを見つけることと、ホームステイでたくさん話すこと。

<目標に対する成果>

日本は、交通ルールがしっかりしていて車が多いが、ベトナムはオートバイが多くて逆走もたくさんしていた。ホームステイでは英語も使って沢山話すことができた。



料理の完成を見守る寺田さん
(写真左)

海外派遣事業の5日間で変わったこと感じたこと

牧野 亘朔（竜洋中学校3年）

この海外派遣事業は、不安や楽しみ、緊張といった様々な気持ちの中始まりました。飛行機からベトナムが見えた時、日本と違う光景に、楽しみという気持ちに似た言葉では表しがたい気持ちでいっぱいになりました。バスに乗って市街地を回っていると車よりもバイクが多く、鳴り響くクラクションに道端に落ちているゴミ。改めて日本の交通ルールや綺麗さに感謝しました。

1日目に訪れたホアアロ収容所では、捕らえられたベトナム人がどのような生活をしていたのかが見ることができました。捕らえられた人々は諦めずに前向きに生きたと聞いて、小さなことで悩んでいる自分が恥ずかしく思えたのと同時に、ベトナム人の逞しさやポジティブさに「自分も前向きに生きよう」と心が動かされました。

2日目に訪れたヤマハモーターベトナムでは、日本で活躍している企業ということもあり、親近感が湧きました。そこで働く日本人は楽しそうに働いていました。働いていた現地の方は、働くことにやりがいを感じているようでした。ベトナムの街で走行しているバイクの多くがヤマハ製ということから、日本の企業が世界で活躍していることに世界の広さや企業の大きさを感じました。その次に訪れた軍事歴史博物館では、戦争時のものがそのまま残されていました。ベトナム戦争でアメリカに散布された枯葉剤の影響で今でも苦しんでいる人が48万人もいることに衝撃を受けました。ホームステイ先の方はとても優しく、僕たちのつたない英語でも会話できました。

3日目の現地学生との交流では、学校の説明をしていただきました。ベトナム人は、ベトナム、フランス、日本、韓国、英語など沢山の言語を学んでいることに驚きを隠せませんでした。僕らに見せてくれたよさこいは、とても格好よく、こうして日本の文化について知ってもらえると、とても嬉しいなと思いました。

4日目のハロン湾クルーズでは、世界遺産を間近で見たり触れたりすることで大きな感動を得られました。次のイオンモールは、日本のものとあまり変わらず違和感がなく、ベトナムの方から親しまれているのだなと思いました。

最後に、この5日間はとても短く大変貴重な体験となりました。海外派遣事業を行う前の気持ちとは、180度変わって興味や関心を持つことができました。人と人との繋がりの大切さなどが見えた気がしました。

<研修での目標>

自分の消極的な性格を少しでも直し、たくさん人と話すこと。海外で少しでも多くの知識を得て、これからの自分や周囲に広めていきたい。

<目標に対する成果>

挨拶だけでもと思い、レストランやホテルの方にも挨拶をしっかりとしました。これからの未来に繋がられるようなことは、たくさんあったので、この体験を糧にして頑張りたいです。



YMVNで挨拶する牧野さん
(写真中央)

ベトナムに行ったことで学んだこと

田中 陽希（豊田中学校2年）

僕は今回、豊田中学校の学校代表として磐田市中学生海外派遣事業に参加しました。はじめは、ベトナムはどんな国なのかやどんな人たちと一緒に行くか楽しみでした。そして、研修の日、はじめて他の学校の人に会いました。正直とても緊張して、最初は何も話すことができませんでしたが、調べたことを話したり、お弁当を食べたりしていくうちに、だんだんと会話が進むようになっていき、今日初めて会った人と思えないほど仲良くなりました。このようなメンバーで迎えた当日、朝早くからバスに乗ってセントレアに行きました。そして、初の飛行機にりましたが、離陸したときに体が下に吸い込まれる感じはとてもすごかったです。4時間半くらいかけてやっとベトナムに着きました。出口に行くにつれて、だんだんと日本とは全く違う国だと分かっていき、外に出たときは、日本にはないような熱がぶわあ〜と風が吹いてきて、「これがベトナムか!」と感じるくらいわくわくしていました。そして、ガイドのアキさんに会い、バスに乗って色々なところをまわりました。ヤマハモーターベトナムやハロン湾クルーズ、軍事歴史博物館などと、ベトナムに来たら必ず行った方がよいところを回ることができました。その中でも特に印象が残ったのが、現地との学生さんと交流したことです。ホームステイをした後に、学生さんたちと遊んだり、話をしたりということも楽しかったのですが、一番は現地の学校の一人の高校生が折り紙でベトナムの花の「はすの花」を折って僕にくれたことです。そこから学んだこととは、国が違っても心の優しさは変わらないということです。ベトナムは日本ととても深い関わりがありますが、最初にベトナムに手を貸してあげた企業の方は、ベトナム人一人一人の優しさがあってこそ今に至ったと僕は思います。今回は5日間という長いようで短いようなそんな海外派遣事業でしたが、このような期間で初体験や発見ができたことは、とても良いことだと思います。そして、一緒に行ったメンバーとベトナムであった出来事は、一生忘れられない思い出となりました。この体験を生かして、みんなに「ベトナム」という国について詳しく教えたいと思いました。

<研修での目標>

大きな体を生かして、ベトナムの人達と交流を深め、仲良くなる!

<目標に対する成果>

特に生かした場面は、現地の学生さんと交流するときにはたくさんの生徒と話したり、遊んだりして、顔を覚えてもらったことと、ご飯を残さずみんなの分まで食べたこと。



ベト・ドク高校の生徒に質問する田中さん（写真右）

ベトナムで学んだこと

小島 彩花（豊田南中学校3年）

私は今回の海外派遣事業で多くのことを学びました。そして、多くの人と出会い、貴重な体験をすることができました。一緒に行った10人とも仲良くなり、毎日が本当に楽しかったです。

まず、ベトナムに着いて驚いたことは、滝のような雨が急に降ってきたことです。研修中、毎日雨が降りましたが、日本の大雨とは全然違いました。急に降って、すぐにやむ。何事もなかったように晴れる日もありました。一番雨がひどかったときは、道路が冠水してしまいました。これは、日本ではありえないことだと思いました。

そして、街の様子も日本と全然違って驚きました。道路にはバイクがたくさん走っていて、クラクションが飛び交っていました。日本では車が多いけれど、ベトナムはバイクばかりでした。

次に、私がこの研修で一番印象に残っていることは、ホームステイと現地の高校生との交流です。ホームステイは緊張していたけれど、ホームステイ先のチーさんやチーさんの友達のみコさん、チーさんの家族のみんなは親切でフレンドリーでした。チーさんとみコさんは日本語を話せますが、チーさんのお母さんとお父さんは日本語を話せませんでした。だから私は頑張って英語でお話しました。分からない単語もあったけれど、なんとか通じたと思います。でも、もっと英語を話せるようになりたいと思いました。そして、もっといろいろなことを話したいと感じました。

次の日、チーさんとみコさんが通うベトナム・ドク高校へ行きました。みんな明るくて、フレンドリーで、場を盛り上げてくれました。私たちは出し物として、紙飛行機を一緒に折ることと、だるまさんが転んだを一緒にやりました。どちらも盛り上がり、本当に楽しかったです。高校生と過ごした時間はあっという間で、別れが惜しかったです。機会があったらまた会いたいと思いました。

最後に、この5日間は私にとってかけがえのないものとなりました。この事業があったからこそ、できた体験です。この事業に携わったみなさんに感謝します。本当にありがとうございました。

<研修での目標>

- ・日本との違いを実際に見て体験する。
- ・現地の人と積極的にコミュニケーションをとる。

<目標に対する成果>

- ・実際に行ってみると、日本と雰囲気が全然違った。
- ・つたない英語でも話すことができた。



ベトナムの遊びを教わる
小島さん（写真左）

海外派遣事業を振り返って

鈴木 咲理（豊岡中学校3年）

私は、今回この海外派遣事業で色々なことを学びましたが、一番強く感じたのは、「平和のありがたさ、大切さ」です。

ベトナムに到着してまず最初に行った場所がホアアロ収容所でした。ベトナム戦争の時にも実際に使われていた足かせ等を見ることができました。また3日目に行った軍事歴史博物館では、ベトナム戦争の資料が沢山あり、戦争中の恐ろしさや悲惨さを肌で感じました。戦争中に散布された枯葉剤の影響により、今現在でも障害を持って生まれてくる子どもがいるそうです。戦争は終結しているのに、戦争を知らない子どもにも苦しみが降りかかっている現実には、私は言葉を失いました。戦争は二度と起こしてはいけないんだということを心から思いました。

文化の違いも沢山感じる事ができました。まず、バイクがとても多く、日本とは比べものになりません。二人乗りや三人乗り用のバイクも多く売られています。

また、歩行者は横断歩道を使用せずに普通に道路を渡ったり、日本よりも信号がかなり少ないと感じました。それにも関わらず、交通事故は少ないそうです。譲り合いの気持ちを持つことで少なくなっているのかもしれないかもしれません。日本では、あおり運転や逆走など、自己中心的だと感じるニュースも目立ちますが、皆が改めてマナーやルールを意識していけば、交通事故は減らせるのではないかと思います。

ホームステイ先や、現地の学校では沢山の高校生と話をすることができました。そして帰国した現在でも交流でき、友達になれたことは私の財産です。

そして、最終日に行ったハロン湾クルーズは、景色もよく、とても気持ちがよかったです。エメラルドグリーンの海水は、まるで写真や絵の中にいるようでした。

この5日間、本当に貴重な経験をする事ができました。そして、何よりの宝物は、この事業を通して出会った10人の仲間です。5日間共に過ごす中で、協力しあうことはもちろんですが、沢山の話をし、強い絆が生まれたと思います。

最後に、今回この事業に参加させてくれた方々、関わってくださった全ての方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

この経験を今後にかし、学んだことを沢山のの人に伝えていきたいと思っています。

<研修での目標>

この事業で出会う全ての方と積極的にコミュニケーションをとる。

<目標に対する成果>

たくさん会話ができて、忘れられない思い出ができた。



仲間とくつろぐ鈴木咲理さん
(写真右)

ベトナム派遣事業を通して

鈴木 琉花（磐田東中学校3年）

私は、「消極的な自分の性格を直す」ということを目標に、この事業に参加しました。学校の代表一人ずつで行ったので、当然お互いのことをまだ知りません。それに加えて、海外に行くので、言葉が通じるかどうかも分かりません。だからこそ、この目標を達成するにはいい機会だと思いました。

初日。まだ見ぬ海外に胸を弾ませながら、飛行機を待ちました。その間にも、他の皆と沢山話すことができました。

移動する間は貸切のバスに乗っていたので、皆でワイワイしゃべりながら過ごすこともできました。

1日目の夜や、3日目の夜は、ホテルの1つの部屋に集まって遊んだりしたのは、いい思い出になったと思います。

2日目の夕方からは、ホームステイ先の家のお世話になりました。最初は、言葉が通じなくて大変だとも思っていました。しかし、ホームステイ先の方々はとても優しく、すぐに打ち解けあうことができたと思います。さらには、一緒にホームステイに行った友達とも趣味があった様で、その話題についてよく話していました。

その後、その家の人達と伝統的なベトナム料理のお店へ外食に行ったり、夜のベトナム中心街を見てまわったりしました。

3日目は、ベトナムの高校との交流がありました。私は、代表の言葉を言うことになっていたもので、とても緊張していました。台本は、最初はベトナム語で、途中からは英語で書いて発表しました。緊張しながらの発表でしたが、人前で発表するというこの目標に近づけたと思います。

この海外派遣事業を通して、積極的に行動するのはどういうことか分かったと思います。だから、自分の将来の夢や、目標に向かって役立てていきたいです。

<研修での目標>

ベトナムの文化や習慣に触れ、交流をはかる

<目標に対する成果>

ホームステイや学校訪問などで、ベトナムに住んでいる人たちの暮らし等を見ることができた。一緒に行った仲間たち、現地の人たちとコミュニケーションをとり、実りある研修になったと思う。



市場を散策する鈴木琉花さん
(写真手前)

派遣同行者報告

心が開かれるときを経験

村松 啓至（団長・教育長）

磐田市中学生海外派遣事業が、さまざまな皆様のおかげで無事に大きな成果を収めることができました。中学生という多感な時期に、海外での研修を希望する仲間たちと共に、このような経験をするには、なかなかできません。この事業を創ってくださった皆様、運営に携わった市の職員、昨年につき丁寧に対応してくださったハノイノンバイヤマハ発動機の皆様、子どもたちを後押ししてくれたご家族の皆様に心より感謝申し上げます。そして、学校の代表として、親元を離れ果敢に初めての海外研修に挑戦した11人の中学生の行動力を讃えたいと思います。

この海外派遣を通して、すべての子どもたちが貴重な体験をし、素晴らしい経験を積むことができたと思います。出国審査や入国審査、持ち物・身体検査など、国を越えるためには色々な審査があり、安全性を重視した人々の営みがうかがえたと思います。また、出国審査や入国審査などでは、英語が通じず困ったこともありましたが、トラブルもなく進みました。また、ホームステイもスムーズにできたことは、確かなエビデンスはありませんが、磐田市の子どもたちの英語の力が向上し、磐田版英語カリキュラムの実践の成果が出てきたのではないかと考えています。

1975年にベトナム戦争は終結しましたが、ベトナムに多くの傷跡を残しました。もっとも大きなものは、枯葉剤の影響です。昨年訪問したホーチミンでは、その影響を赤裸々に今に伝えていました。ハノイでは勝利した北ベトナムとして、訪問した軍事博物館などでは国を形成してきた一つの過程として、「戦争」が表現されていました。所によって、戦争のとらえ方が違うことを踏まえ、子どもたちにとっては、改めて「戦争とは何か」「植民地とは何か」を考える大きなきっかけになったと思います。

本年度の新たな試みとして、ホームステイを行いました。ベトナムの高校生や保護者と接することができ、子どもたちは素晴らしい経験をすることができました。その経験を支えたのは、ホストファミリーの皆様であり、心から歓迎してくれたその姿に感動しました。フランスの植民地時代の影響を受けた5階建てのきれいな家の中も見せていただきました。観光旅行では決して見ることでできないベトナムの皆さんの生活に触れることができたことは、子どもたちにとっても得難い貴重な体験となりました。オートバイの多さや交通事情などの日本との違いはとらえやすいものですが、本当の文化や生活の違いを、このホームステイから学ぶことができたのではないのでしょうか。

迎えてくれたホストファミリーの皆さんの開かれた心とベトナムという国は、子どもたちの心を開いたと思います。そして、11人の仲間たちとのつながりを深めたと思います。開かれた心と深いつながりは一生の財産になるはずです。帰国後、ある方から電話をいただきました。「海外派遣研修へ行った子と会ったが、明るくたくましくなっていた」とうれしいお話でした。

磐田市は、可能性に満ちた「たくましい磐田人」の育成を目指しています。海外派遣は子どもたちに、国内ではできない経験を得させ、心を開き、たくましさを身に付けて

くれました。そして、子どもたちの成長を見ている大人たちにも貴重な経験を積ませてくれたと思います。関係する皆様に感謝しつつ、磐田市の子どもたちが、未来に向けて、より一層たくましく成長していくことを心から願っています。



中学生海外派遣研修に参加して

山内 秋人（こども部長）

ベトナムは、一人当たりの GDP が日本に比べ約 1/15、平均給与月額が 2.5 万円ほどということですが、国民の平均年齢が 30.4 歳（日本は 46.5 歳）と若く、経済成長率も 7% を超えるなど、街全体に活気があり、将来への希望に溢れ、皆が明るく前を向いて進んでいることが、まちの喧騒や多くの工事現場、人々の表情から、肌で感じ取ることができました。

バイクの波、毎日のスクール、道端で憩う人々、おいしいフォーなど日本とは全く違う文化を目の当たりにして、子どもたちは何を感じたのでしょうか。特に、今回の中学生海外派遣研修では、初めてホームステイが実施され、一泊ではありますが、現地の家庭での生活を体験したことや、学校での生徒たちとの交流会など、現地の人たちと直接触れ合う機会が多くあり、彼らの非常に WELCOME な受け入れる気持ちと積極性や明るさ、「日本に行くことが夢」といった言葉など前向きな姿勢から多くの刺激を受け、大きく成長できたのではないのでしょうか。

結団式では、初めての海外や長期間親元を離れるといった不安を覗かせていた子どもたちも研修が終わっての解団式では、皆、胸を張って研修の感想や今後の決意をそれぞれの保護者の前で発表する姿を見ると、やはり、人の成長には、多くの出会いが大切であり、様々な異文化との出会いを体験する機会を与えることが、極めて重要であると改めて認識しました。

最後に、子どもたちが、これからの人生において、一つひとつの出会いを大切に、より成長していくことを願うと共に、この中学生海外派遣研修事業の中で出会った、ヤマハモーターベトナムの皆様、現地のガイドさん、子どもたちを受け入れてくれたホームステイファミリーの皆様、ハイスクールの先生方や学生たち、その他多くの皆さんとの出会いに感謝したいと思います。



初めてのベトナム体験

宇田 信一（磐田第一中学校教諭）

ベトナムへ行くと思ったとき、ベトナムに関する知識はほとんどありませんでした。恥ずかしいことですが、故ホー・チ・ミン大統領の名前やベトナム戦争が行われたことくらい知識しかありませんでした。また、以前、ベトナム出身アメリカ人のALTの方と英語の授業をさせていただき、その方の御厚意でベトナムの家庭料理を御馳走になったことを思い出しました。そんな中、海外派遣生である11名の中学生のみなさんとベトナムに向けて出発しました。

今回のベトナム訪問で印象に残っている2つの言葉があります。一つは今回のツアーに同行してくれたベトナム人ガイドの「アキ」さんが何度か口にした言葉「ベトナムの人は過去のことを引きずらず前を向いて生きている」という言葉です。過去の歴史を振り返ってみると、ベトナムは、中国、フランス、アメリカ等との戦争を経験しました。しかし、ベトナムの人は、その都度、悲しい出来事、苦しい体験を引きずらず、前を向いて生きているというのです。口で言うのは簡単ですが、日々の生活を地道に、誠実に、前向きに生きていくことの大切さを教えられたような気がしました。もう一つの言葉は、ヤマハ ノイバイ工場の日本人の方が「ベトナム人は、日本人に似て勤勉です」と言われたことです。ベトナムの工場では、不良品を出さないように取り組んでいるため、どこかの工程で不良箇所が発見されると、すべての工程がストップしてしまうとのことでした。それは、ペナルティを与えるためではなく、より良いものを作りたいという思いからのものだと話してくださいました。不良品を出さない、安全・安心なものを製造するという意識が高いということ、仕事に関して学ぼう、製造技術を高めようという意識が高いということだそうです。その成果のためか、ベトナムのものづくりの評価が高いということでした。ひと昔前、日本人の国民性は勤勉さにあると言われていたように思いますが、果たして、現在はどうでしょうか。ベトナム人の勤勉さから自らを振り返る時を与えられました。

さて、今回の海外派遣の募集・内容については、過去6回の派遣と異なる点がいくつかありました。各校1名の募集であるということ、過去に海外に行ったことがないことが条件であること、現地の家庭にホームさせていただくプログラムがあるということでした。そのような中、各校を代表する個性的な面々が集まってきました。7月29日の事前研修のため、市役所1階の会議室に集まったときの11名のみなさんの緊張している面持ちは今でも思い出すことができます。海外派遣を終えた今では、それも懐かしい一コマとなっています。

最後に、派遣生11名のみなさんにとっては、今回が初めての海外体験でした。私自身もそうでしたが、初めて異国の土地に自らの足を一步踏み入れたときの得もいえぬ空気、何とも表見しがたい高揚感生涯、きっと忘れないことでしょう。生まれて初めての海外体験、初めての異国体験をみなさんの胸の内にしっかりと刻んでおいてほしいと思います。

海外派遣事業を振り返って

石坂 理美（豊田南中学校 養護教諭）

普段とは全く違う環境の中で、生徒たちは大きなけがや病気なく過ごすことができ、また全員で全行程を終えられたことが、まず何よりも良かったと感じています。それだけでも私はこの事業は成功だと言えるのでは、と思います。生徒たちはそれぞれが立てた目標を果たすため、見学場所では説明にしっかりと耳を傾け、常にメモをとり、現地の方や参加者と関わる中で多くのことを感じ取った、実りある日々を過ごすことができました。特に、ホームステイや現地の高校生との交流は不安や緊張が大きかったと思いますが、積極的に行動し、コミュニケーションをとる姿は大変立派でした。

私は今回の行程の中で、心に残った言葉があります。それは、ヤマハモーターベトナムでの「仕事のやりがいを感じたときはいつですか」という生徒からの質問に対する副工場長さんの「ベトナム工場がヤマハから認められたときです。」という言葉です。より生産性を上げるために現地の方たち自らが策を考え改善をすることで、他国を含めた工場の中で1位という実績を多く上げています。その言葉の中には、副工場長さん自身が日本での環境とは違う中で、苦労や努力を重ね、まじめに仕事に向き合っていることが窺い知れました。また、仕事に対する強い誇りが感じられました。

私はどこかへ旅行に行ったとき、何かしら感じ取ることはありますが、それをいざ生活に生かすとなると、なかなか難しいことだと感じています。しかし、今回参加した生徒たちが多くのことを吸収していく姿を見る中で、この子たちであれば感じ取った何かを、生活に生かすことができるだろうと感じています。すぐに生かせなくても、将来のいつかでもいい、磐田市のためでも、自分のためでも、家族のためでも、友達のためでも、何かの形でこの学びを生徒たちが生かしてくれることを期待しています。

最後になりましたが、この事業を企画し運営して下さった磐田市、5日間共に活動し支えて下さった職員の皆様、11人の中学生とその家族の皆様、そして旅行会社の方々に深く感謝いたします。



海外派遣事業を振り返って

大石 祥平（財政課）

日本を出発しておよそ6時間後、ベトナムの首都ハノイ市にあるノイバイ国際空港に到着した私達を待っていたのは、想像よりも激しいスコールでした。そこでは、日本とは違う気温と湿度、人々や建物などの景色だけではなく、独特の空気が広がっていました。

日々変化する社会情勢や、国や地域により異なる考え方や状況に対応するため、現代を生きる私達には多岐に渡る能力と視野が求められています。おそらくこの傾向は今後も続き、さらに大きくなるものと思われれます。

磐田市中学生海外派遣事業の目的の一つが、本市の将来を担う中学生達が現地の歴史や文化及び産業、そこで働き、暮らす人々をその目で見て、会話し、肌で感じることに、何事にも縛られない新しい視点と多角的で広い意味での分析力、考察力、行動力を高めることにありました。

最終日に中部国際空港から市役所に向かうまでのバスの中で、滞在中に撮影した写真を見返してみると、最初は緊張で固まっていた中学生達の表情が次第にとびきりの笑顔へと変わり、同行した仲間との距離も、現地の方々との距離も見違えるほど近付いていました。これは、相手の気持ちや思いを素直に受け入れて全員が積極的に行動した結果であり、充実した日々であったことを改めて実感しました。

11人の中学生達は、わずか5日間の間に数えきれない経験をしました。生まれて初めて飛行機に乗り、工場を見学し、そこで働く人々の思いを聞き、歴史や文化を学び、食を味わい、ホームステイでは不安な気持ちでいっぱいだった自分のことを温かく受け入れて貰えることのありがたさを感じました。バイクで溢れる道を歩き、買い物をしたことだけでも忘れられない出来事となったことと思います。

今回の挑戦で出会い、関わった人々の「思い」と、新たに結んだ「つながり」を大切に、時々振り返って自分自身と向き合うための貴重な機会として欲しいと願います。また、事前の結団式や解団式で皆が口にしていたとおり、感じた気持ちや経験を伝え、共有することで関わる人達に影響を与え、今回の経験を生かして成長することが事業に参加した私達全員に与えられた使命だと思えます。同行した仲間達と共に、私もそのことについてこれから考えていきます。

最後に、本事業の実施にあたり、業務多忙にも関わらず早く送り出してくださった職場の皆様と、関係したすべての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

未来への大きな一歩

仲市 ももこ（市民課）

高い湿度やスコール、道を埋め尽くすバイクの洪水に、鳴り止まないクラクションの音で異国の地に来たということをさっそく感じることができた研修初日。学校も学年もバラバラだった子どもたちがすぐに打ち解けた様子を見て、彼らの溢れんばかりの若さとパワーを感じました。

ホアアロ収容所や戦争博物館、現地の市場や世界遺産のハロン湾など、5日間の研修中に訪問したところはたくさんありましたが、その中でも、子どもたちが一番生き生きと活動していたのはホームステイと現地の高校生との交流の時間でした。

今年で7回目となるこの事業ですが、ホームステイは今年が初の試みということで、子どもたちはもちろん随行者である私たちも不安がありました。しかし、ホームステイ先の家族と対面したとき、英語と日本語、ジェスチャーを駆使してコミュニケーションをとっている姿を見て、その不安はなくなりました。子どもたちは現地の実際の暮らしや食、文化に触れ、多くのことを学んで、1日だけのホームステイでしたが、大きく頼もしく成長したように見えました。

また、現地の高校に訪問し交流したとき、多くの高校生の前で堂々と日本の文化である「折り紙」と「だるまさんがころんだ」を英語で説明し、一緒に盛り上がることができました。「日本の歌を歌ってほしい」との突然のリクエストにも磐田市歌で答える対応力も見せてくれました。

ベトナムでの5日間を終えて、子どもたちの大きく成長する姿を間近で見守ることができたことが、私にとって大きな財産となりました。磐田市の未来を担う子どもたちがこんなにたくましく、明るく、前向きだということを知ることができ、とても頼もしく思うとともに、市の職員として彼らにできることは何があるのかということを考える良いきっかけとなりました。

最後になりましたが、今回の研修を安全に実りあるものにしようと尽力して下さった全ての方、業務多忙にもかかわらずこの研修に参加することを後押しして下さった職場の皆様にご心より感謝申し上げます。



中学生海外派遣事業を終えて

金子 芙由子（秘書政策課）

今年度の中学生海外派遣事業を準備するにあたり、私が一番に考えていたことは、まずは全員が無事に研修を終えること、そして生徒たちに中学生という今の時期にしかできない体験をしてもらいたいということでした。

今年度海外派遣研修に参加した11名は、それぞれ市内の各中学校から推薦された学校の代表者です。

7月に行われた事前研修では、初めて参加者が顔合わせをしました。全員が初対面ということもあり、最初は緊張した空気が流れていましたが、ヤマハ発動機株式会社の工場見学やグループワークを通じて、だんだんと「チーム」になっていきました。現地学校訪問時にどのような出し物をするのか決めるグループワークでは、こちらが手助けしなくても積極的に英語での発表の原稿を考えてくれ、「この子たちのチームワークはすごい」と心から感心したのを覚えています。

そして海外派遣期間中もその絆はどんどんと深まっていきました。ベトドク高校訪問時には、現地の高校生から「日本の歌が聞きたい」というリクエストがあり、生徒たちは、事前練習もなしに、「ふるさと磐田」を披露してくれました。磐田から遠く離れたベトナムで、思いがけず生徒たちの素晴らしい市歌を聞くことができ、私もとても感動しました。

また生徒が今回絆を深めたのは、参加者とだけではありません。ヤマハモーターベトナムの工場見学では、現地の方へ積極的に「シン・チャオ」とあいさつをしていましたし、ホームステイや現地学校訪問時には、現地の学生と交流してとても仲良くなりました。バスが発車する瞬間まで写真を撮って別れを惜しんでいたほどです。言葉がうまく通じなくても、時には身振り手振りでコミュニケーションをとり、笑いあい、お互いの文化を紹介しあうその姿に、人同士が仲良くなるのに言葉がすべてではないのだと気づかされ、中学生のたくましさを感じました。中学生というこの時期に、海外で様々な人との絆を深められたのは、大人になってからではできない貴重な経験だったのではないのでしょうか。

私も今回の海外派遣事業では、ベトナムの人の生活のこと、物の考え方、歴史のことなど、様々なことを学び、研修前と比べて視野も広がりました。本事業に参加してくれた生徒たちにも、それぞれ様々な気づきがあったことと思います。是非、今回の経験をもとに、これから様々な挑戦をしていってください。そして、いつの日か磐田市を共に支える仲間として、何らかのかたちで関わることができれば嬉しいです。

最後になりましたが、参加してくれた中学生、保護者の皆様、ヤマハ発動機株式会社の皆様、学校関係者の皆様、その他多くの方々のご協力により本事業を無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

資 料



緊張した初顔合わせ



ヤマハ発動機株式会社磐田工場を訪問



バイクについて積極的に質問しました



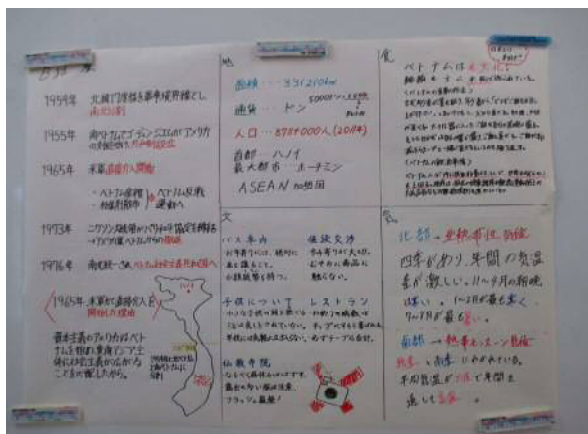
ベトナムについてグループワーク



学んだことをまとめます



グループワークの成果を発表



綺麗にまとめました



現地学生へのプレゼントを折りました

令和元年8月9日（金）結団式



市長 あいさつ



決意表明 宮本理名さん



団長訓示（村松教育長）



派遣団一同 記念撮影

令和元年8月19日（月） 派遣1日目



朝早くに集合して出発式



入国手続きの練習…英語で答えられるかな？



無事に出国手続きが終わりました



ベトナムまで飛行機で5～6時間



初めての海外に期待が膨らみます



ベトナムに到着すると、スクールが…



最初は道を渡るのもおっかなびっくり



オペラハウスではあいにくの雨

令和元年8月19日（月） 派遣1日目



ホアアロ収容所はフランスがつくった収容所



ベトナム人の捕虜が収容されていました



ガイドのアキさんがベトナムの歴史を説明



説明に真剣に聞き入る子どもたち



捕虜たちは足かせをつけて収容されていました



祈りをささげます



夕食は初めてのベトナム料理



みんな美味しく食べられました！

令和元年8月20日（火） 派遣2日目



YMVN で日本企業の活躍を知りました



イヤホンをお借りして工場見学へ



副工場長さんへお礼のあいさつ



YMVN のみなさんと記念撮影



工場付近の道を牛が横断していました



ハノイにある軍事歴史博物館へ



ガイドのアキさんの話を真剣に聞きます



ベトナム戦争の歴史を学びました



スコールがやみ、タンロン城へ



発掘された品々が展示されていました



広大な広場に「地球って広い！」



いよいよホームステイ先の家族と対面



ホームステイ先へってきます！



本当の家族のようになじんでいます



ホームステイ先ハイさんの家は洋服屋の上



あたたかく迎えてくれました

令和元年8月21日（水） 派遣3日目



ベトク高校へホームステイ先の生徒と登校



多くの生徒が集まってくれました



日本語で学校紹介をしてくれます



高校生たちのよさこいは大迫力！



ベトナム語と英語であいさつ



記念品をプレゼント



英語で紙飛行機の折り方を説明



綺麗に飛びました！

令和元年8月21日（水） 派遣3日目



折り方もちゃんと伝わったみたいです



「だるまさんがころんだ」のルールを発表



動いたひとはいるかな？



高校生たちも大白熱！



折り紙をプレゼント



ベトナムの高校生に質問しました



日本の歌のリクエストに磐田市歌を披露



高校を案内してもらいました

令和元年8月21日（水） 派遣3日目



ベトナムの遊びも教えてもらいました



負けた人には罰ゲームが…。



楽しかった交流もあっという間におわり



最後まで別れを惜しみました



とてもよい交流ができましたね

令和元年8月21日（水） 派遣3日目



学校のお迎えで道路は大混雑



ハロン湾へはバスで3時間半



移り変わる景色が面白いです



ベトナムの刺繍店に立ち寄りしました



夕食は海鮮鍋



ハロン湾の名物はシーフード



とても美味しかったです



レストランの入り口には魚介類がたくさん

令和元年8月22日（木） 派遣4日目



世界遺産に登録されているハロン湾へ



この船に乗船します



雄大な自然に感動！



湾上では心地よい風が吹いていました



途中で下船して鍾乳洞へ



神秘的な光景が広がっていました



お昼ごはんはシーフード



おそろいでポーチを買いました



ハノイ近郊のイオンモールへ



スーパーではお寿司も売っていました



自由行動でお店を散策



英語でドリンクを注文します



ちゃんと注文できたかな？



自分で頼んだドリンクは格別の味！



現地の市場にも行きました



見たことのない魚に興味深々



展望台からはハノイの街が一望



現在地下鉄の駅を建設中だそうです



ベトナム最後の晩ごはんはフレンチ



ナイフとフォークの使い方を教わりました



国旗降納式を見学します



この研修でみんな「仲間」になりました



いよいよ帰国です



お世話になったガイドさんともお別れ

令和元年8月23日（金） 派遣5日目



市役所に戻って解団式



一人一人、研修の成果を発表



仲間とも今日でお別れです



みんな大きく成長しましたね



磐田市企画部秘書政策課

〒438-8650 磐田市国府台3番地1

T E L : 0538-37-4805

F A X : 0538-36-8954

E-mail : kikaku@city.iwata.lg.jp